

中国語における空間移動参照と動詞結合価

方 経民・齊 滬揚・増野 仁・鄭 麗芸

空間参照とは、空間世界における様々な空間関係を認識及び表現する認知システムであり、その内部に空間方位、空間存在及び空間移動の3つの参照システムを含むものである。空間方位参照は空間世界における方向と位置を認識及び表現する認知構造であり、空間存在参照は空間世界における物体の存在関係を認識及び表現する認知構造であり、空間移動参照は空間世界の物体の移動関係を認識及び表現する認知構造である。中国語では、層次を異にするこの3つの参照システムはそれぞれ異なる言語形式によって言語空間に反映する。また、それら3者は空間認知プロセスにおける位置づけや作用を異にするとはいうものの、相互に深く連繫するものである。(方経民 1998)

本論は、主に中国語における空間移動参照の認知、文法及び意味の3者の関係をめぐって考察を進めていきたい。

1 中国語における空間移動参照の認知類型

1.1 移動参照の認知的特徴

「移動」とは、物体が占める空間位置が移動中に変化することを指す。移動は1つの移動プロセスで、移動物が時間の推移に伴って、空間に1つの移動経路を残すことである。空間移動参照は、「叙述者が移動物と移動経路との関係に基づいて、物の移動関係を確定するものである」と定義される。空間移動参照は常に移動物を図とし、移動経路を地とし、認知されるのは図の地における空間的移動の関係である。

空間移動参照の作用とは、物の空間的移動を確定することである。空間移動

参照の認知方式によって、空間移動参照は単純移動参照と趨向移動参照に分けられる。

1.2 単純移動参照

単純移動参照は1つの移動プロセスを表現し、動詞 [+移動] の意味的特徴に含まれた線状をなす移動経路によって示される。その図として際立った移動物の移動方式の相違に基づいて、自動的移動、他動的移動と随伴的移動の3種に分類される。例えば、

他们已经走了	(自動的移動)
他把发票扔了	(他動的移動)
我给了他一本书	(他動的移動)
大家都忙着搬家具呢	(随伴的移動)

単純移動参照の動詞は必ず [+移動] の意味的特徴を持つ。自動的移動における動詞は通常、単価動詞であり、動作者 (S) は移動物の移動として際立たされる (S (+)) (“+” は移動物とし、“-” は非移動物とする)。他動的移動と随伴的移動における動詞は双価もしくは三価動詞であり、他動的移動の場合、動作者は動作を行うだけで、受動者 (O) は移動物の移動として際立たされる (S (-), O (+))。随伴的移動の場合、動作者と受動者は同時に移動物の移動として際立たされる (S (+), O (+))。

1.3 趨向移動参照

趨向移動参照は移動プロセスのみでなく、移動趨向とも関連している。趨向とは移動物のある参照点に対する運動方向であり、[+移動, +趨向] の意味的特徴を持つ趨向動詞、あるいは「V+趨向動詞」の構造によって示される。単純趨向動詞の趨向移動参照は次元同定趨向移動と視点定位趨向移動に分類される。

“进/出, 上/下, 过, 回, 起”は、次元同定の趨向移動参照である。移動物

の移動経路の趨向を表す一方、また移動経路における起点、通過点あるいは到達点の趨向参照物の空間における次元的特点を同定する。すなわち、「進／出」は三次元の「立体」、「上／下、起」は二次元の「平面」、「过」「回」はゼロ次元の「点」として同定する。例えば、

進／出(立体)： (搬)进屋子 ? (搬)进舞台 (搬)出屋子 ? (搬)出舞台

上／下(平面)： ※(搬)上屋子 (搬)上舞台 ※(搬)下屋子 (搬)下舞台

起(平面)： 屋顶升起股白烟 舞台上升起股白烟

过(点)： (穿)过屋子 (穿)过舞台 (走)回屋子 (走)回舞台

ただし、この「舞台」を一つの「立体」の空間範囲として同定しなければ、この「搬进／出舞台」は成立し得ない。

「来／去」は視点定位の趨向移動参照である。叙述者が文脈上1つの視点を定めるのであり、「来」の場合は移動物が視点に向かって近づき、その視点は移動の到達点あるいは目標に据えられ、「去」の場合は移動物が視点から離れて行き、その視点は起点に据えられる。例えば、

到学校来 往学校来 往学校走来 把书拿来

到学校去 往学校去 往学校走去 把书拿去

複合趨向動詞の趨向移動参照は次元同定と視点定位との複合である。

走进屋子来 走进屋子去 把书拿进来 把书拿进去

走出屋子来 走出屋子去 把书拿出来 把书拿出去

走上台来 走上台去 把书拿上来 把书拿上去

走下台来 走下台去 把书拿下来 把书拿下去

走回学校来 走回学校去 把书拿回来 把书拿回去

走过桥来 走过桥去 把书拿过来 把书拿回去

站起来 把书拿起来

「V+进来／进去」は、それぞれ三次元空間へ入る移動プロセスの到達点および起点に視点を定位し、「V+出来／出去」は、それぞれ三次元空間から出る移動プロセス到達点と起点とに視点を定位し、さらに、「V+上来／上去」は、そ

それぞれ低処から高処への二次元平面に入る移動プロセスの到達点および起点に視点を定位し、「V+下来/下去」は、それぞれ高処から低処への二次元平面に入る移動プロセスの到達点および起点に視点を定位し、「V+回来/回去」は、それぞれゼロ次元の起点へ戻る移動プロセスの到達点および起点に視点を定位し、「V+过来/过去」はそれぞれゼロ次元のある点を通過する移動プロセスの到達点および起点に視点を定位し、「V+起来」は低処の二次元平面より高める移動プロセスにおける水平視線の平面上に視点を定位する。ただし、「V+起去」の言い方は成立しない。

2 移動基点, 移動方向と移動趨向

2.1 移動経路と際立たせ方

物体が空間において移動を起こし、移動状態となった物体は、時間的移動以外に、空間的移動をも起こす。例えば、

他把红旗举了起来 小张寄出去一封信

「红旗」と「信」の空間的位置はすべてある場所から他のある場所への移動を経たものである。

空間移動参照において位置の移動プロセスは線状をなす1つの移動経路を示す。移動経路は動詞の[+移動]の意味的特徴によって示され、それは移動基点、移動方向、移動趨向という3つの部分に関連する。そして、それぞれ移動のトラジェクター (trajector, TR) のランドマーク (landmark, LM) として際立たされる。

移動基点は通常、基点介詞によって際立たされ、よく使われる基点介詞は、「从」および「到」である。際立たされた移動基点は1つの空間的領域のカテゴリーであり、起点、通過点および到達点の3種からなる。

他们已经走了：他们已经从这儿/从后面走了

他把发票扔了：他把发票扔到废纸篓里了

介詞フレーズを導入すると、線状をなす移動経路のある段階が際立たされる。

すなわち、「从」は起点あるいは通過点を、「到」は到達点を際立たせる。

移動方向は一般には、方向介詞によって際立たされ、よく使われる方向介詞は「往」、「朝」および「向」である。直接に移動方向を際立たせることもできるが、目標を際立たせることによって、間接的に移動方向をも際立たせることができる。

他们已经走了：他们已经往／朝／向东走了

他把发票扔了：他把发票往废纸篓里一扔

移動趨向は通常、趨向動詞によって際立たされる。移動趨向とは移動物が移動経路に沿って方向的に移動することで、移動基点と移動方向とを含む。したがって、移動方向を際立たせるとき、基点介詞あるいは方向介詞がなくても、移動基点あるいは移動方向を際立たせることができる。

他们已经走了：他们已经走下舞台了

他把发票扔了：他把发票扔进废纸篓里了

2.2 移動基点の際立たせ方の類型

起点と到達点の概念を導入した場合、物体が動いた時の移動基点の際立たせ方の特徴により、我々は中国語における移動経路を表現する文を4つに分類することができる。すなわち、(1)起点あり、到達点なし(+,-)、(2)起点なし、到達点あり(-,+)、(3)起点あり、到達点あり(+,+)、(4)起点なし、到達点なし(-,-)。

(1) 起点あり、到達点なし(+,-)

从北京出发 屋里走了一个人 赶出教室

(2) 起点なし、到達点あり(-,+)

送到北京 屋里来了一个人 走进教室

(3) 起点あり、到達点あり(+,+)

从北京回到上海 屋顶上掉下来一块瓦片

(4) 起点なし、到達点なし(-,-)

2.3 移動方向の多方向性

空間における移動には方向がある。物体の時間における運動は1次元的で、常に1つの方向に向かう。しかし、物体の空間における運動は多次元的で、しばしば複数の方向に向かうことがある。例えば、

他把红旗举了起来（上向+近向） 小张寄出去一封信（外向+遠向）

空間における移動は複数の方向に向くことができるが、その移動方向によって、通常、空間移動は次の3つに分類される。

(1) 垂直方向における移動

上向：移動動詞：上，举，抬，提，升……。

移動動詞+趨向動詞「上」「起」：举起，提上，抬起，升起……。

下向：移動動詞：下，压，掉，丢，扔，跌，降，摔……。

移動動詞+趨向動詞「下」：丢下，扔下，降下，掉下……。

(2) 水平方向における移動

近向：移動動詞：来，拉，收，拨……。

移動動詞+趨向動詞「来」：拉来，收来，拨来，拎来……。

遠向：移動動詞：去，推，扔，吹，放……。

移動動詞+趨向動詞「去」：推去，吐出，扔去，吹去，拿去……。

(3) 輻輳方向における移動

内向：移動動詞：进，吸，吞……。

移動動詞+趨向動詞「进」：吸进、走进、拉进、放进……

外向：移動動詞：出，吐，呼……。

移動動詞+趨向動詞「出」：吐出，走出，拿出，推出……。

また、複合方向における移動もある。

上+近向：上来

上+遠向：上去

下+近向：下来

下+遠向：下去

2.4 趨向移動の様々な表現

趨向移動は趨向動詞あるいは「V+趨向動詞」の構造で際立たされる。趨向動詞は [+移動, +方向] の意味的特徴を持つため, [V+趨向動詞] の構造におけるVは非移動動詞でもよい。

「移動動詞+趨向動詞」と「非移動動詞+趨向動詞」は, 物体の移動を表す時には異なる。前者の移動は具体的な移動で, 動詞自身の意味からも理解されるものであり, この種の移動は顕在的である。一方, 後者の移動は抽象的な移動で, 動詞自身の意味から必然的に理解されるものではなく, ある種の派生義的な移動であるゆえ, この種の移動は非顕在的である。例えば,

具体的移動：淌下眼泪来 抱着孩子走出去

抽象的移動：鼓励他唱下去 从他眼睛里看出来悲哀

移動動詞を述語とする具体的な移動文は, さらに2種類の異なった文型に分類される。1つは動作のプロセスを強調するもので, 動作移動文といい, 他の1つは動作の結果を強調するもので, 状態移動文という。次の例文の如きものである。

動作移動文：寄一本书去 (動作「寄」のプロセスを強調し, このプロセスは「一本书」の移動を標志し, 主に「一本书」の空間におけるある1点から別の1点への移動経路を説明する。)

状態移動文：寄去一本书 (動作「寄」の結果を強調し, その結果は「一本书」の移動開始を標志し, 主に「一本书」における移動物体が「一本书」であることを説明する。)

3 移動参照と動詞結合価の研究

3.1 移動参照文の動詞結合価の確定根拠

移動参照文では、通常、「結合価」の数で移動成分の数を定める。この「移動成分」は結合価理論の「行動項」(actant)に当たるもので、「移動行動項」(movable actant)と称する。移動文の動詞の「移動行動項」成分は、主に名詞フレーズと介詞フレーズとである。これらは文の主語、文中の動詞目的語あるいは介詞目的語のいずれでも成立可能である。

移動文の「結合価」の確定根拠を検討する際、次の2つの問題に注目すべきであろう。

第1に、移動動詞の「結合価」はVPの「結合価」であり、趨向移動参照では、物体の移動特徴が表せるのは[+移動, +趨向]の特徴を持つ趨向動詞「来/去」, 「上/下」, 「進/出」などである。厳密に言えば、上述の例文の動詞「拿, 送, 回, 钻」などは、[+動作]の意味的特徴を持つだけで、[+移動]の意味的特徴を欠くばかりでなく、[+移動させる]の意味的特徴すら持たない。[+移動][+移動させる]という意味的特徴は、[動詞+趨向動詞]の組み合わせからはじめて表されうる。このような趨向動詞は単純な「来/去, 上/下, 進/出」などでもでき、複合的な「上来/下去, 进来/出去」などでもできる。また、他の「入, 到, 回」などの語彙もできる。したがって、ここで考察する移動文の「動詞」の「結合価」とは、実際には、[動詞+趨向動詞]のVPの「結合価」として考えるべきである。例えば、上述の例文「拿来, 送去, 回来, 回去, 钻出来」などである。したがって、この移動動詞の「結合価」も、VPの「結合価」として見直した方がより適切であると考えられる。

第2に、移動参照文のVPの結合価を定めるのは、必移行動項と必移場所項である。移動参照文では、移動行動項の性質が異なっている。「他走过来了」の「他」は、VP「走过来」の文に必要な成分で、もしなければ文法規則には合致しない。また、これはVP「走过来」は意味上結び付けられた「移動対象」であ

る。したがって、「他」はVP「走过来」の「必移行動項」である。しかし、「他挤出来一段牙膏」では「必移行動項」は「他」ではなく、「一段牙膏」であることは、「一段牙膏」こそ「挤出来」の文に必要な成分で、もしなければ文法規則には合致しないわけである。この「他」は一定の言語環境においては現れなくても構わないが、VPにおいて意味上結び付けられた補足成分として、動作「挤」によって歯磨き粉を「出来」させた動作者であるので、「他」は「使移行動項」である。

その外、移動参照文にはまた場所の名詞性語句がある。もし文に場所語彙がなければ文の法則に当てはまらない場合、私たちはこの場所語句を「必移場所項」と称する。例えば、「他们把王方抬上主席台」の「主席台」が必ずあるのは、そうしないと文が成立しないからである。また、たとえ文中の場所語句がなくても文の規則に当てはまる場合、私たちはこの場所語句を「可移場所項」と称する。例えば、「他从牙膏管里挤出一段牙膏」の「牙膏管里」がなくても、文は成立する。したがって、移動参照文においてVP「価」を決定する根拠は、VPと関連のある「必移行動項」と「必移場所項」の項目で決めるべきである。すなわち、1つの必移成分なら単価VPで、2つの必移成分なら双価VPで、3つの必移成分なら三価VPである。

3.2 動態移動文におけるVPの「結合価」の種類

移動参照文の必移成分の項目数によって、移動参照文のVPを3種類に分類する。すなわち、単価VP、双価VPと三価VPである。これら異なる価の表現であるVPを更に分析すると、とりあえず次のようにまとめられるであろう。

単価VP₁：必移行動項＋（可移場所項）：

他来了。 一帮人从前面走来了。

単価VP₂：必移行動項＋可移場所項：

小王跳下汽车。 金丝鸟飞出牢笼。

単価VP₃：使移行動項＋必移行動項：

弟弟挤出来一段牙膏。 他从口袋里掏出五分钱。

双价 VP₁：必移行動項＋必移場所項：

他们挤上火车。 一群人走进山村。

双价 VP₂：使移行動項＋必移行動項＋必移場所項：

他们把子弹推进枪膛。 老王把钱放到桌子上。

双价 VP₃：必移行動項＋必移行動項：

他带回来一张报纸。 他送去五只鸡蛋。

三价 VP：必移行動項＋必移行動項＋必移場所項：

大伙儿把老王抬上主席台。 老王把船开进港口。

4 終 わ り に

空間移動参照は、空間における認知参照システムを構成する重要な一部である。物理的空間世界における物体の空間移動は、あらゆる人にとって同じであるといつてよく、普遍性をもつ。しかし、言語をことにする人々が同一の空間移動現象に対して示す認知プロセスと認知構造は必ずしも同一ではなく、それらの相違が言語的空間に反映される表現方式も必ずしも同一ではない。本論文は、空間移動参照の認知構造における意味分析および動詞性構造における文法分析の2者を結びつけることによって、中国語の空間移動参照における認知構造の特徴と文法構造の特徴とがどのように明らかになるかを試みたものである。

参 考 文 献

- 儲泽祥 1997 《现代汉语方所系统研究》，华中师范大学出版社。
 戴浩一 1990 以认知为基础的汉语功能语法刍议，《国外语言学》第四期。
 范开泰 1985 《语用分析说略》，《中国语文》第6期。
 范开泰 1988 《语义分析说略》，《语法研究和探索(4)》，北京大学出版社。
 方经民 1998 a 《汉语语法变换研究——理论·原则·方法》，白帝社，東京。

- 方经民 1988 b 汉语空间参照和视点,《首届汉语言学国际研讨会论文集》,待刊。
- 方经民 1988 c 论汉语空间方位参照认知过程中的语义理解, '98现代汉语语法学(国际)学术会议论文,待刊。
- 方经民 1999 a 论汉语空间方位参照认知过程中的基本策略,《中国语文》第1期。
- 方经民 1999 b 汉语空间方位参照的认知结构,《世界汉语教学》第4期。
- 久野章 1973 『日本文法研究』,大修館。
- 廖秋忠 1989 空间词和方位参照点,《中国语文》第1期。
- 李冠华 1985 由“上,下,进,出”充当的趋向补语对处所宾语的语义制约,《汉语学习》第6期。
- 刘宁生 1994 汉语怎样表达物体的空间关系,《中国语文》第3期。
- 刘宁生 1995 汉语偏正结构的认知基础及其在语序类型学上的意义,《中国语文》第2期。
- 刘月华 1998 《趋向补语通释》,北京语言文化大学出版社。
- 齐沪扬 1998 《现代汉语空间问题研究》,学林出版社。
- 齐沪扬 1996 《空间位移中主观参照来/去的语用含义》,《世界汉语教学》第4期。
- 山梨正明 1998 『認知文法論』,ひつじ書房,東京。
- 沈家煊 1994 R. W. Langacker 的“认知语法”,《国外语言学》第1期。
- 田中茂範,松本曜 1997 『空間と移動の表現』,研究社出版,東京。
- 文 炼 1984 《处所、时间和方位》,上海教育出版社。
- 文 炼 1986 《句子的解释因素》,《语文建设》第4期。
- 文 炼 1992 《句子的理解策略》,《中国语文》第4期。
- 文炼,袁杰 1990 《谈谈动词的“向”》,《汉语论丛》,华东师大出版社。
- 谢信一 1991 汉语中的时间和意象,《国外语言学》第4期。
- 张 敏 1998 《认知语言学与汉语名词短语》,中国社会科学出版社。
- 中右実,西村義樹 1998 『構文と事象構造』,研究社出版,東京。
- Herskovits, A. 1986 *Language and Spatial Cognition*, 日译本(1991),オーム社,東京。
- Teng, S-h. (邓守信) 1975 *A Semantic Study of Transitivity Relations in Chinese*, University of California Press, Ltd.
- Taylor, J. 1995 *Linguistic Categorization: Prototypes in Linguistic Theory*, 日译本(1996),紀伊国屋書店,東京。
- Ungerer, F. & Schmid, H-J. 1996 *An Introduction to Cognitive Linguistics*, 日译本(1998),大修館書店,東京。
- Lakoff, G. 1987 *Women, fire, and dangerous things*, 日译本(1993),紀伊国屋書店,東京。
- Leech, G. & Svartvik, J. 1974 *A Communicative Grammar of English*, Longman.

付記：本稿は平成9年度松山大学学術研究国際交流助成による研究成果である。